
令和7年度
帯広市小中学生
読書アンケート調査結果
報告書

令和7年12月
帯広市教育委員会

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査対象及び調査方法	2
3 回答内訳及び調査実施校	2
4 調査実施担当	2

II 設問別調査結果	3
問1 あなたは本を読むのが好きですか。（漫画、雑誌を含む）	4
問2 学校の授業以外で平日（月～金曜日）に、一日、どれぐらいの時間、本を読みますか。（漫画、雑誌を含む）	5
問2-1 問2のうち、どれぐらいの時間、漫画や雑誌を読みますか。	7
分析-1 読書量のうち、漫画、雑誌が占める割合	8
問2-2 問2のうち、スマホやパソコンなどで、一日、どれぐらいの時間、本を読みますか。（漫画、雑誌を含む）	9
問3 学校の図書室に、1ヶ月の間にどのくらい行きますか。	10
問4 1ヶ月の間に本を何冊ぐらい読みますか。（漫画、雑誌を含む）（スマホ、パソコンでの読書も含む）	11
問4-1 問4のうち、何冊ぐらい漫画や雑誌を読みますか。	12
問4-2 問4のうち、何冊ぐらいスマホやパソコンなどで読みますか。（漫画、雑誌を含む）	13
問5 読んだ本はどこで出会った本が多いですか。	14
問6 今年は、昨年と比べて本を読む機会は増えましたか。	15
問7 あなたは、小学校に入る前、家の人に絵本や本を読んでもらったことがありますか。	16
分析-2 家庭内読み聞かせと読書が好きな子どもの相関関係	17
総評	18

III 参考	19
1 全国学力・学習状況調査資料	20



I 調査の概要

1 調査の目的

帯広市の子どもたちの読書に対する意識や実態を毎年調査し、第五期帯広市子どもの読書活動推進計画の点検・評価を行うとともに、図書館運営、読書活動推進にあたっての参考資料とする。

＜参考 第五期計画の取組目標＞

- ① 読書が好きな子どもの割合【増加】
- ② 学校の授業時間以外に、平日一日当たり10分以上読書をする子どもの割合【増加】
- ③ 1ヶ月に1冊も本を読まない子どもの割合【減少】

2 調査対象及び調査方法

調査対象：帯広市内の小学4年生～中学3年生

調査数：小学生3,484人（26校）、中学生3,796人（14校） 合計7,280人

回答数：小学生2,994人（26校）、中学生3,084人（14校） 合計6,078人 回答率（83.49%）

調査期間：令和7年6月10日（火）～6月30日（月）

調査方法：児童生徒一人一台端末および北海道電子自治体共同システム「HARP」を使用した電子アンケートを実施。（無記名）

3 回答内訳及び調査実施校

＜回答内訳＞ （合計6,078人）

小学生	4年生	5年生	6年生	合計	中学生	1年生	2年生	3年生	合計
調査対象	1,123	1,202	1,159	3,484	調査対象	1,262	1,297	1,237	3,796
有効回答	914	999	1,081	2,994	有効回答	1,100	1,051	933	3,084
回答率	81.4%	83.1%	93.3%	85.9%	回答率	87.2%	81.0%	75.4%	81.2%

＜調査実施校＞ （合計39校）

第五期計画より、調査対象を市内全小中学校の小学4年生～中学3年生（義務教育学校においては4年生～9年生）とする。

4 調査実施担当

帯広市教育委員会 生涯学習部 生涯学習文化室 図書館

帯広市西2条南14丁目3番地

電話 0155-22-4700

Ⅱ 設問別調査結果

<報告書中の表記>

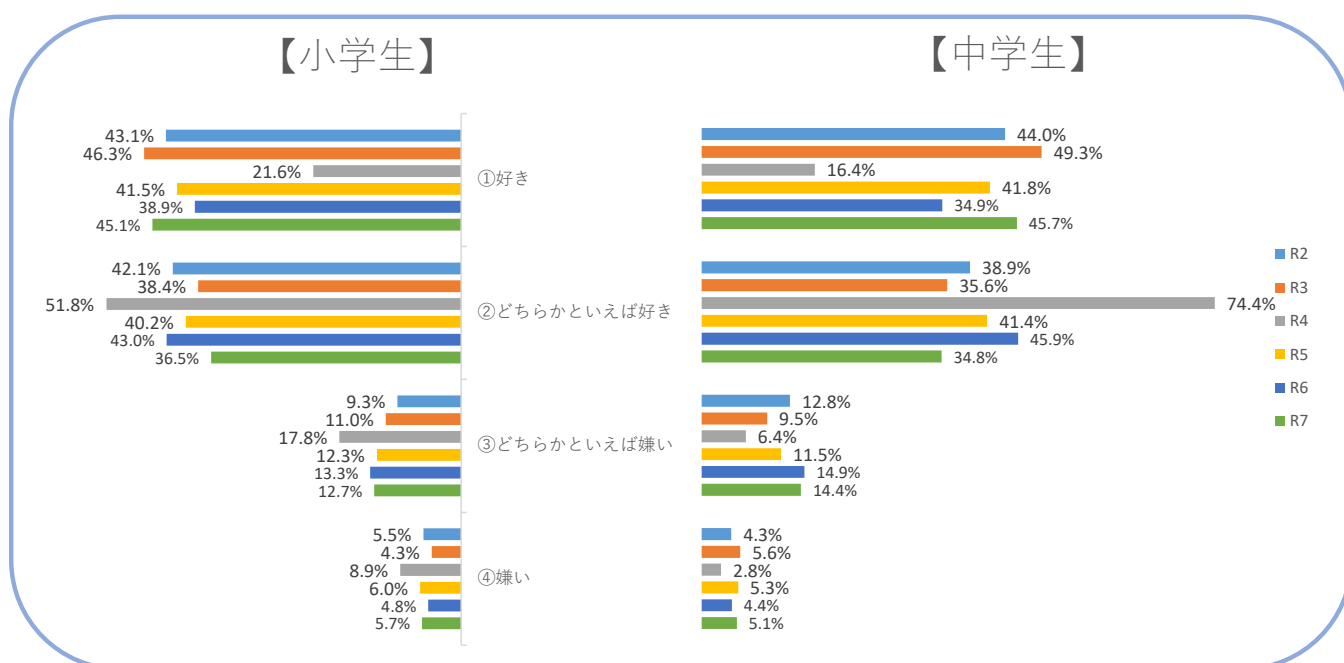
- 本報告書では、特に断りのない限り集計結果の数値を小数点以下第2位で四捨五入している。
- 各設問のグラフには、「無回答」及び「不明」は掲載していないため、回答比率の合計が100%にならないことがある。

- 問1 あなたは本を読むのが好きですか。（漫画、雑誌を含む）
- 概要 小中学生どちらにおいても、「①好き」「②どちらかといえば好き」を合わせて回答の約8割を占めており、例年と変わらない回答結果となった。

令和7年度調査

	①好き	②どちらかといえば好き	③どちらかといえば嫌い	④嫌い
小学生	45.1%	36.5%	12.7%	5.7%
中学生	45.7%	34.8%	14.4%	5.1%

<図1-1 第四期計画（R2～）以降の推移>



【第五期取組目標】

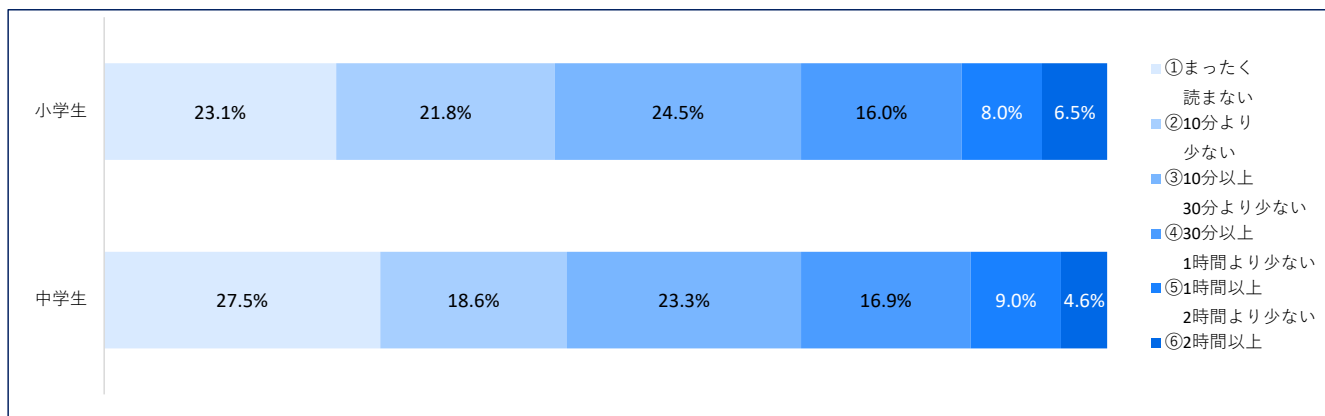
問2 学校の授業以外で平日（月～金曜日）に、一日、どれぐらいの時間、本を読みますか。
（漫画、雑誌を含む）

概要 小中学生どちらにおいても、30分以上読む児童生徒は全体の約3割程度となっており、問1で「読書が好き」と回答した児童生徒が約8割を占めている結果を踏まえると、読書に対して好意的な意識を持ちながらも、家庭での読書時間が短い傾向が見られる。
第四期計画年と比較しても、30分以上読む児童生徒の割合は過去最少であり、読書量は減少しているといえる。

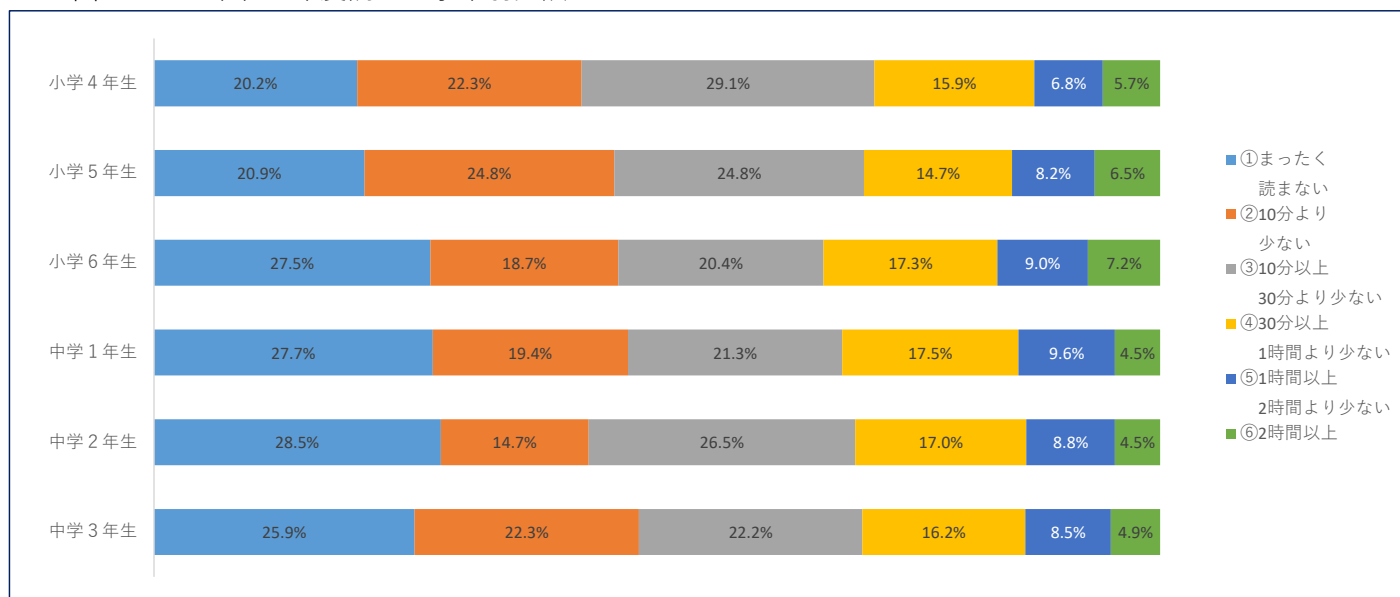
令和7年度調査

	①まったく 読まない	②10分より 少ない	③10分以上 30分より少 ない	④30分以上 1時間より少 ない	⑤1時間以上 2時間より少 ない	⑥2時間以上
小学生	23.1%	21.8%	24.5%	16.0%	8.0%	6.5%
中学生	27.5%	18.6%	23.3%	16.9%	9.0%	4.6%

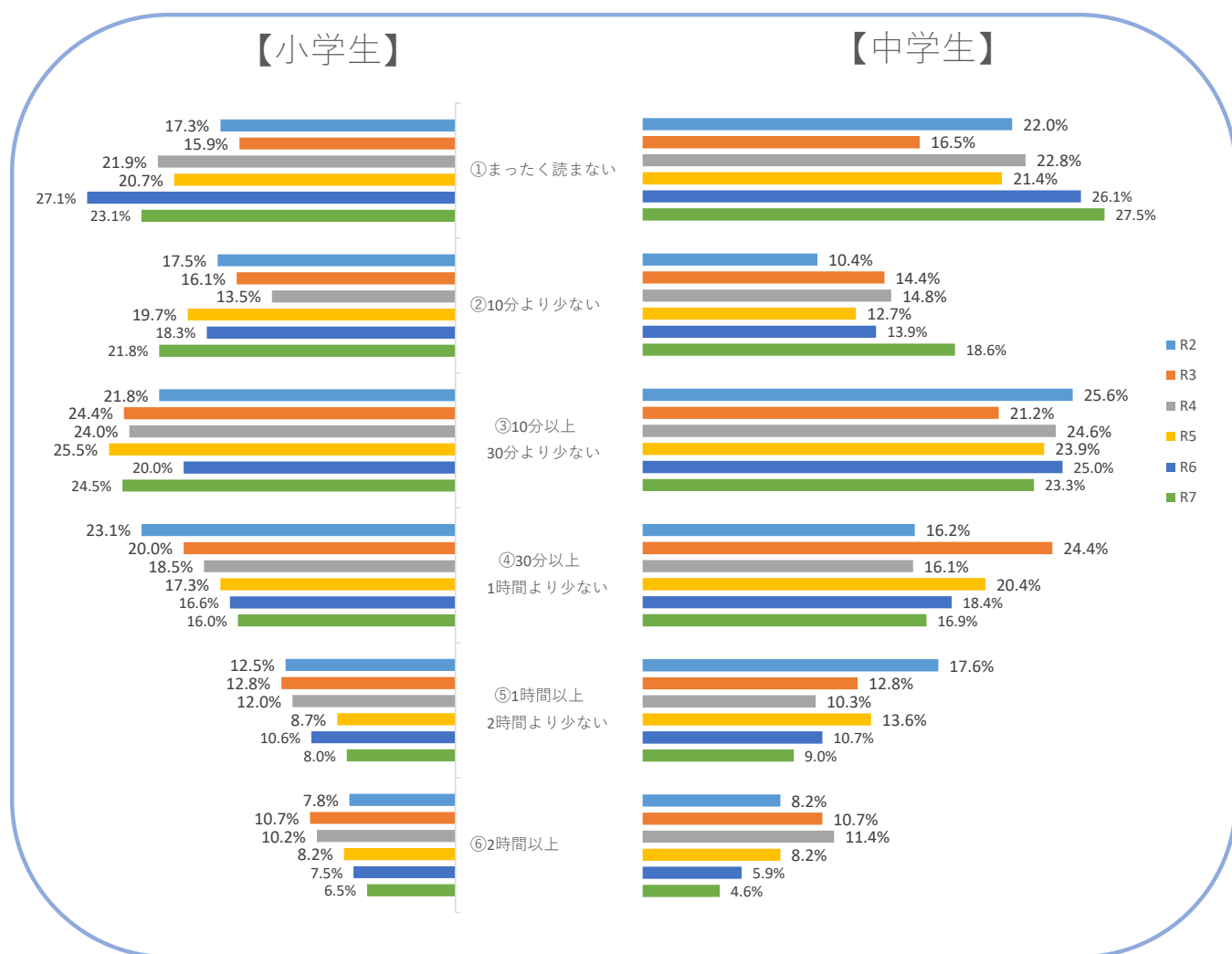
<図2-1 令和7年度調査>



<図2-2 令和7年度調査 学年別内訳>



<図2-3 第四期計画（R2～）以降の推移 >



【第五期取組目標】

問2－1 問2のうち、どれぐらいの時間、漫画や雑誌を読みますか。

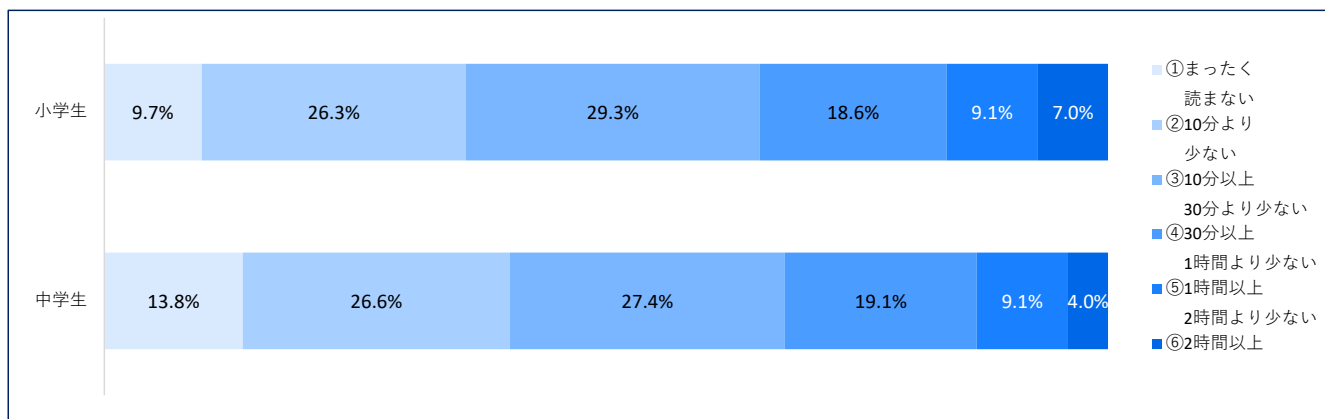
(問2のうち、①の「まったく読まない」と回答した人以外回答)

概要 小中学生どちらにおいても「①まったく読まない」と回答した割合は1割程度と少なく、次頁の集計結果からも、読書における漫画・雑誌の割合の高さがわかる。また、漫画・雑誌は短時間で読めると考えられ、読むと回答した中でも1時間未満の割合が約7割と集中している。

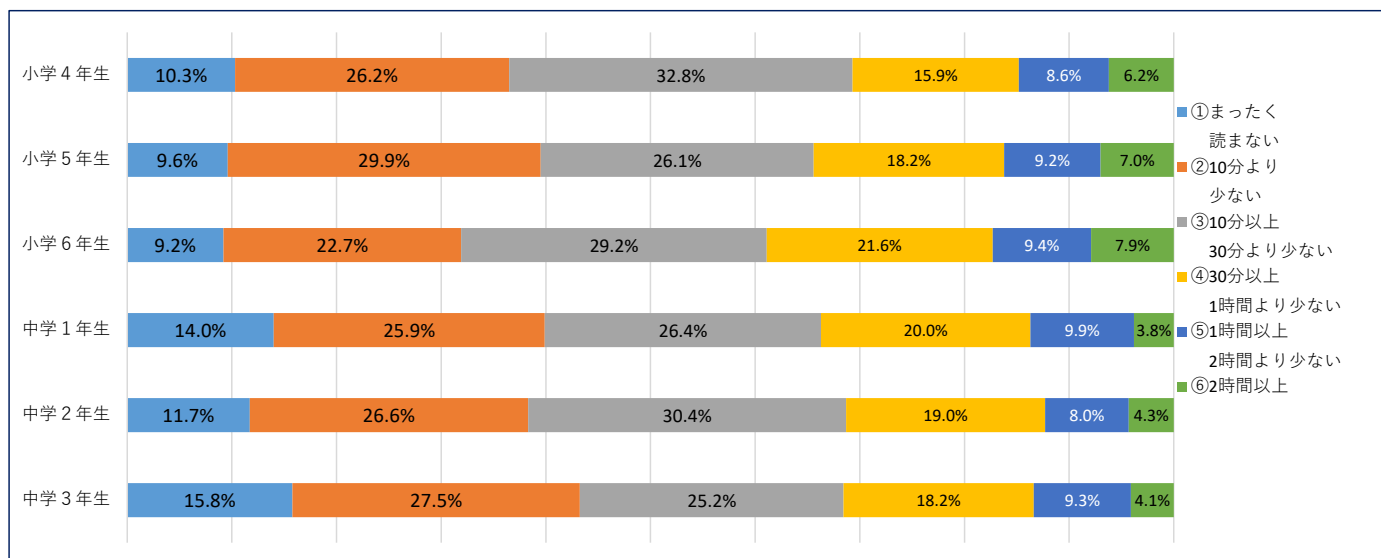
令和7年度調査

	①まったく読まない	②10分より少ない	③10分以上 30分より少ない	④30分以上 1時間より少ない	⑤1時間以上 2時間より少ない	⑥2時間以上
小学生	9.7%	26.3%	29.3%	18.6%	9.1%	7.0%
中学生	13.8%	26.6%	27.4%	19.1%	9.1%	4.0%

<図2－1－1 令和7年度調査 >



<図2－1－2 令和7年度調査 学年別内訳 >



問2と問2-1のクロス集計

問2と問2-1を参照し、「小中学生の一日の読書量のうち、漫画・雑誌が占める割合」を問2の各回答結果ごとに算出したもの。

概要 問2で回答したどの時間帯においても、問2-1の回答結果は上限として設定されている時間帯に半数程度密集しており、小中学生の読書における漫画・雑誌の割合の高さを裏付ける結果となった。

令和7年度調査

		問2-1 漫画・雑誌のみ					
		①まったく 読まない	②10分より 少ない	③10分以上 30分より少 ない	④30分以上 1時間より少 ない	⑤1時間以上 2時間より少 ない	⑥2時間以上
問2 本全体	～10分	23.2%	76.8%				
	10分 ～30分	13.9%	23.0%	63.1%			
	30分 ～1時間	8.3%	8.9%	27.1%	55.7%		
	1時間 ～2時間	6.3%	5.5%	12.4%	29.3%	46.5%	
	2時間～	3.8%	5.9%	4.4%	12.7%	18.6%	54.4%

問2-2 問2のうち、スマホやパソコンなどで、一日、どれぐらいの時間、本を読みますか。

(漫画、雑誌を含む) (問2のうち、①の「まったく読まない」と回答した人以外回答)

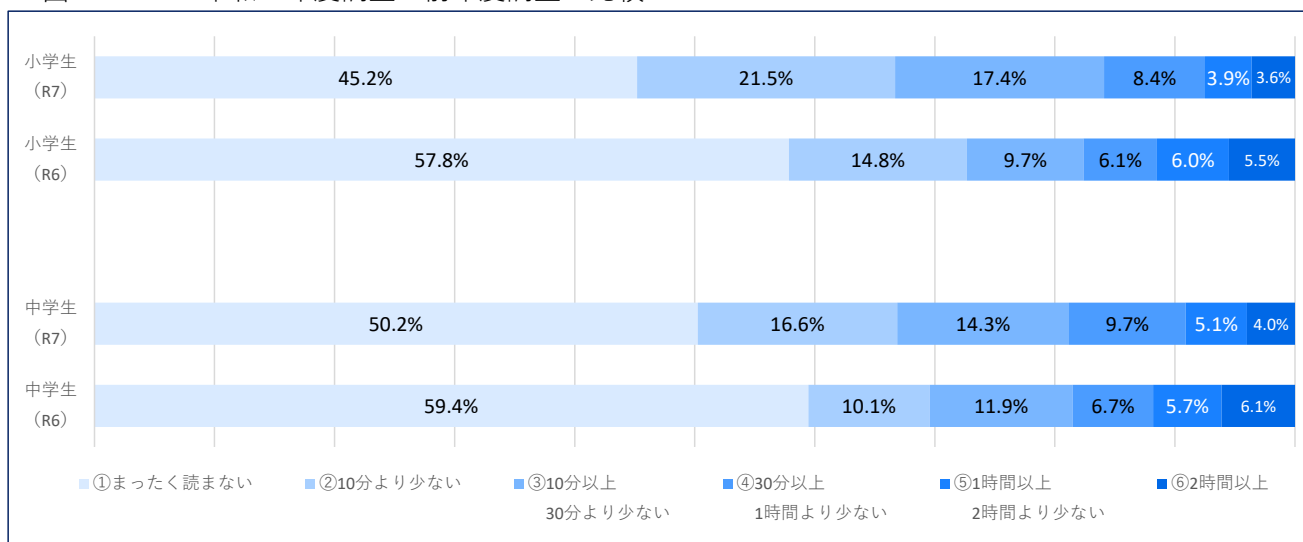
概要 小中学生どちらにおいても、「①まったく読まない」という回答が最も多く、若年層でもいまだ紙の本での読書が一般的だといえる。

一方で、昨年と比較して「①まったく読まない」と回答した割合は、小中学生どちらにおいても1割程度減少し、スマホやパソコンで読書をする割合が増加している。

令和7年度調査

	①まったく読まない	②10分より少ない	③10分以上 30分より少ない	④30分以上 1時間より少ない	⑤1時間以上 2時間より少ない	⑥2時間以上
小学生	45.2%	21.5%	17.4%	8.4%	3.9%	3.6%
中学生	50.2%	16.6%	14.3%	9.7%	5.1%	4.0%

<図2-2-1 令和7年度調査と前年度調査の比較>



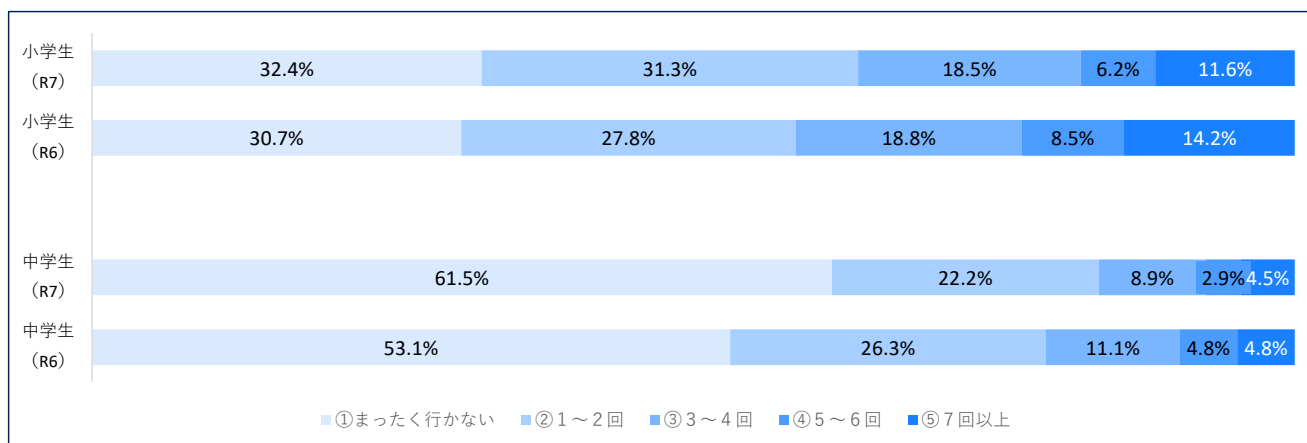
問3 学校の図書室に、1ヶ月の間にどのくらい行きますか。

概要 小中学生どちらにおいても、「①まったく行かない」という回答が最も多く、小学生が32.4%（R6：30.7% 差：1.7pt）、中学生が61.5%（R6：53.1% 差：8.4pt）と令和6年度と比較して増加し、学校図書館の利用が減少している。

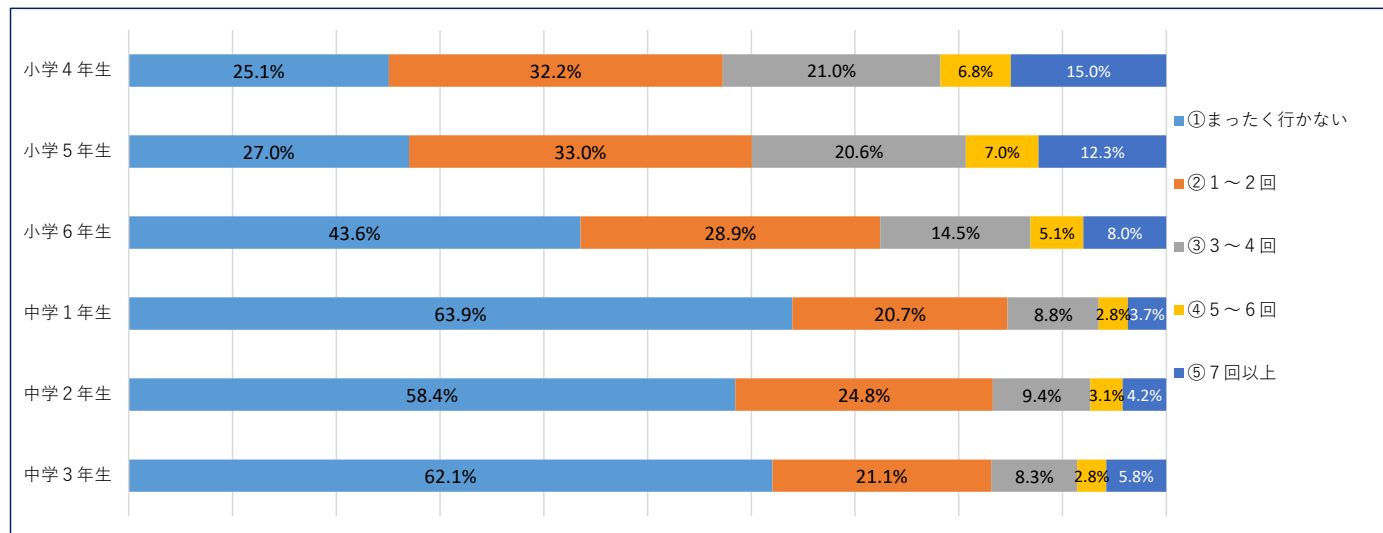
令和7年度調査

	①まったく行かない	②1～2回	③3～4回	④5～6回	⑤7回以上
小学生	32.4%	31.3%	18.5%	6.2%	11.6%
中学生	61.5%	22.2%	8.9%	2.9%	4.5%

<図3-1 令和7年度調査と前年度調査の比較>



<図3-2 令和7年度調査 学年別内訳>

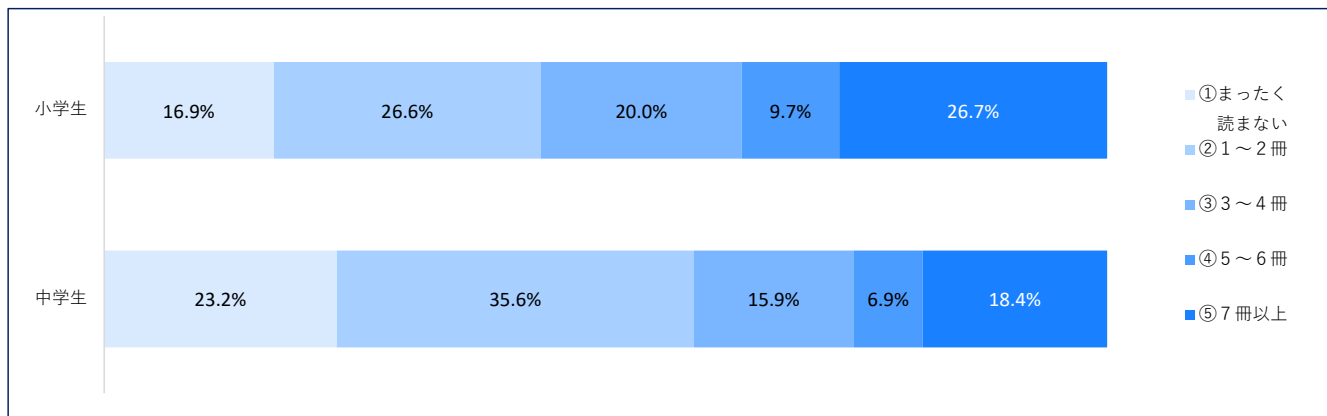


- 問 4 1ヶ月の間に本を何冊ぐらい読みますか。今読んでいる本や漫画、雑誌も入れてください。
 スマホやパソコンで読んだ本も入れてください。
- 概要 中学生においては「①まったく読まない」の割合が第四期計画年と比較して最多となり、反対に「⑤7冊以上」の割合が最少となっている。小学生においても全体的に読書量が減少傾向であり、小中学生の読書量を増加するためには、それぞれの成長段階に合わせたアプローチの方法で推進していく必要がある。

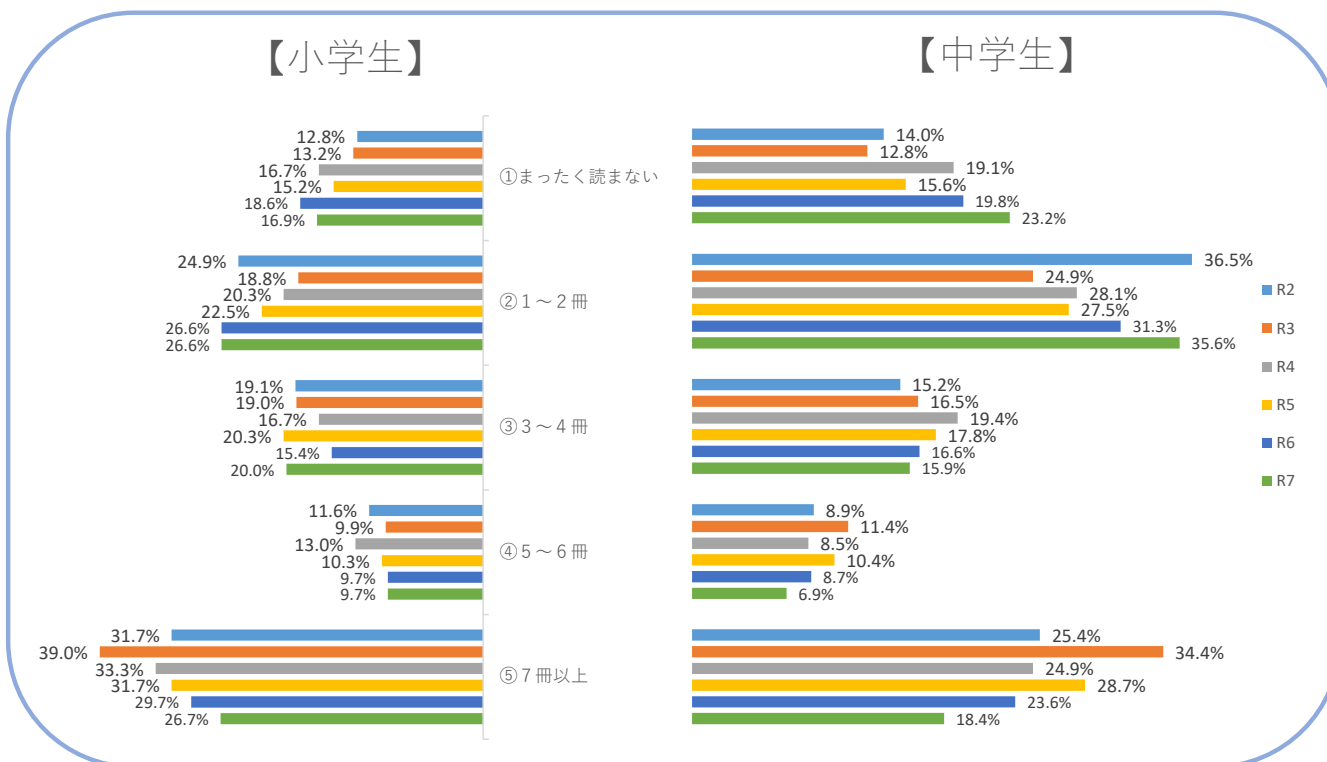
令和7年度調査

	①まったく読まない	②1～2冊	③3～4冊	④5～6冊	⑤7冊以上
小学生	16.9%	26.6%	20.0%	9.7%	26.7%
中学生	23.2%	35.6%	15.9%	6.9%	18.4%

<図4-1 令和7年度調査>



<図4-2 令和7年度調査 学年別内訳>



【第五期取組目標】

問4－1 問4のうち、何冊ぐらい漫画や雑誌を読みますか。

(問4のうち、②～⑤の「1冊以上本を読む」と回答した人のみ回答)

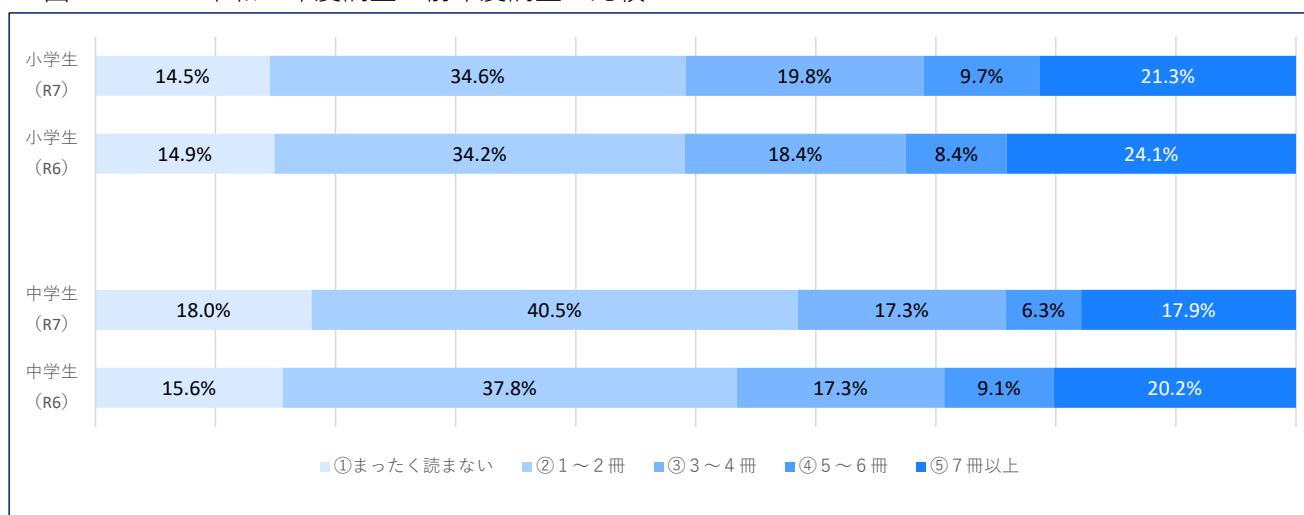
概要 小中学生どちらにおいても、「②1～2冊」読むという回答が最も多い。

令和6年度と比較すると、中学生は2冊以下と回答した割合が増加し、全体の6割弱を占めている。

令和7年度調査

	①まったく読まない	②1～2冊	③3～4冊	④5～6冊	⑤7冊以上
小学生	14.5%	34.6%	19.8%	9.7%	21.3%
中学生	18.0%	40.5%	17.3%	6.3%	17.9%

<図4-1-1 令和7年度調査と前年度調査の比較>



問4－2 問4のうち、何冊ぐらいスマホやパソコンなどで読みますか。

(漫画、雑誌を含む) (4のうち、②～⑤の「1冊以上本を読む」と回答した人のみ回答)

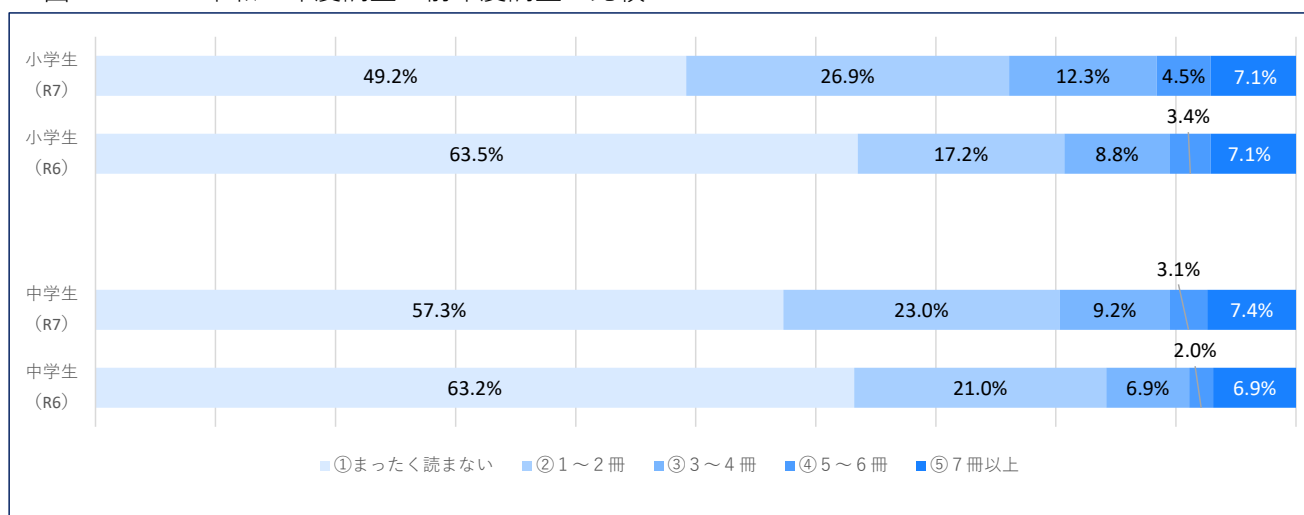
概要 小中学生どちらにおいても、「①まったく読まない」という回答が最も多い。

しかし、問2－2同様、昨年と比較して「①まったく読まない」と回答した割合は、小中学生どちらにおいても減少しており、読書の手段として電子媒体の活用が拡大しているといえる。

令和7年度調査

	①まったく読まない	②1～2冊	③3～4冊	④5～6冊	⑤7冊以上
小学生	49.2%	26.9%	12.3%	4.5%	7.1%
中学生	57.3%	23.0%	9.2%	3.1%	7.4%

<図4-2-1 令和7年度調査と前年度調査の比較>



問5 読んだ本はどこで出会った本が多いですか。

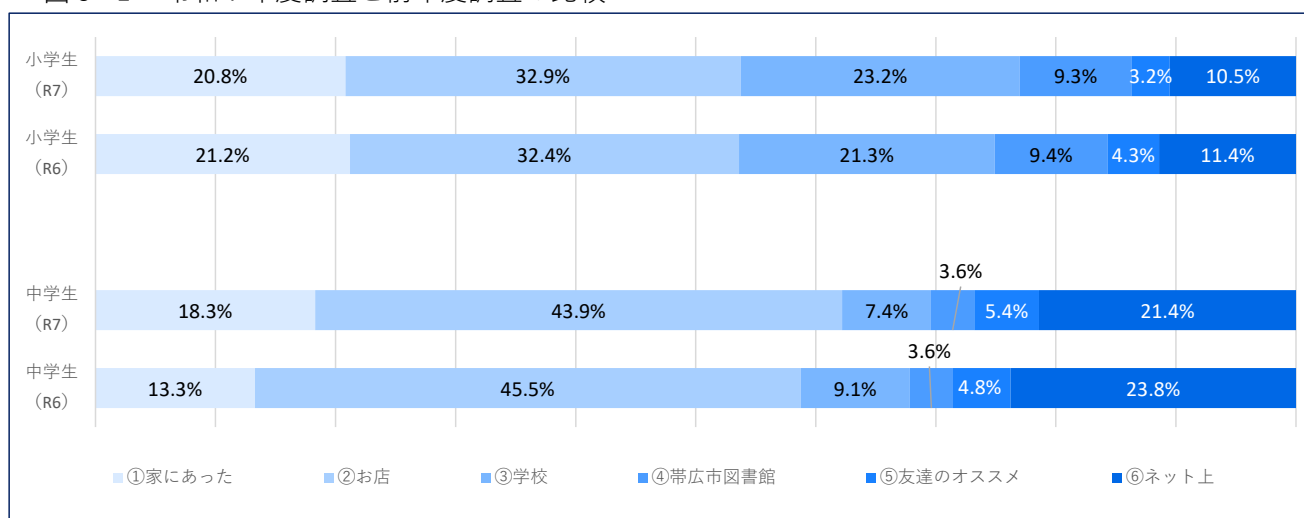
概要 小中学生どちらにおいても、「②お店」という回答が最も多い。

令和6年度同様インターネットを通じた本との出会いは小学生と比べ中学生において割合が大きい。一方、小学生はお店に次いで学校が本を読むきっかけとなっている。

令和7年度調査

	①家にあった	②お店	③学校(教室・図書室)	④帯広市図書館	⑤友達のオススメ	⑥ネット上
小学生	20.8%	32.9%	23.2%	9.3%	3.2%	10.5%
中学生	18.3%	43.9%	7.4%	3.6%	5.4%	21.4%

<図5-1 令和7年度調査と前年度調査の比較>



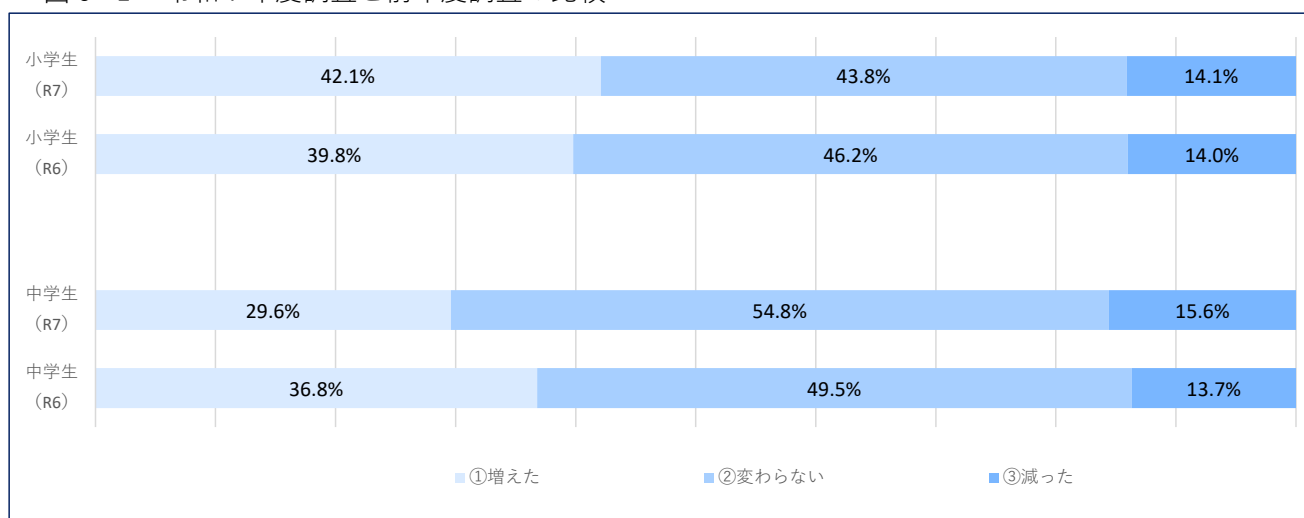
問6 今年は、昨年と比べて本を読む機会は増えましたか。

概要 昨年に比べて、小学生は「①増えた」と答えた割合が少し増加し、反対に中学生は減少した。しかし、小中学生どちらにおいても「①増えた」と回答した割合が「③減った」と回答した割合を上回っている。

令和7年度調査

	①増えた	②変わらない	③減った
小学生	42.1%	43.8%	14.1%
中学生	29.6%	54.8%	15.6%

<図6-1 令和7年度調査と前年度調査の比較>

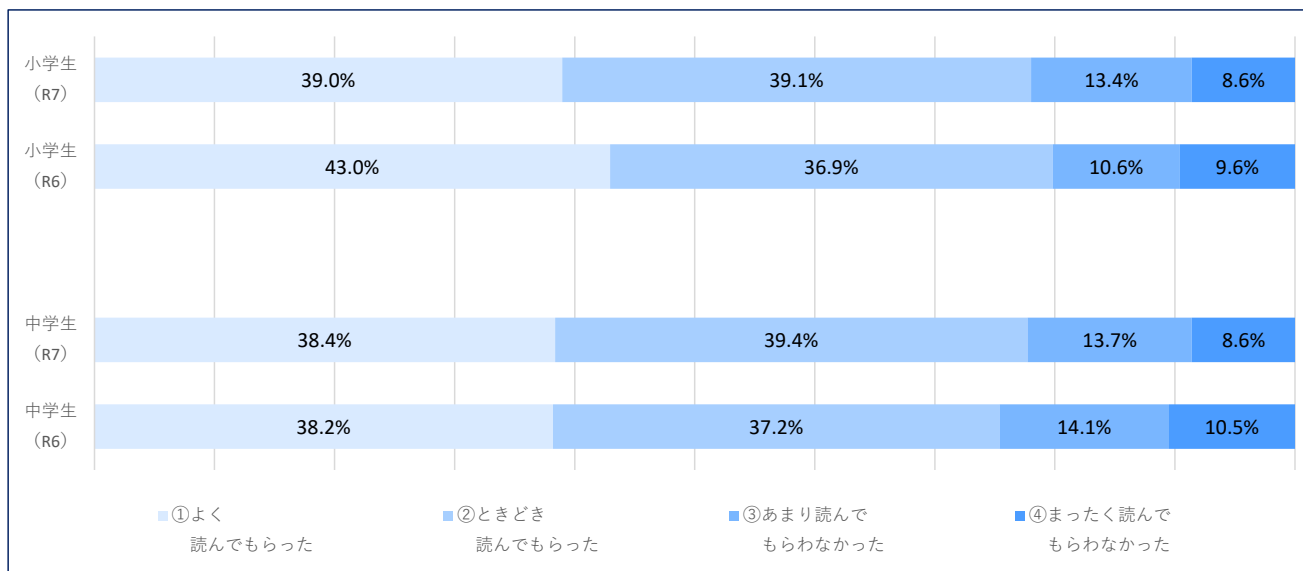


- 問 7 あなたは、小学校に入る前、家の人に絵本や本を読んでもらったことがありますか。
- 概要 小中学生どちらにおいても、「①よく読んでもらった」「②ときどき読んでもらった」を合わせて回答の約8割弱を占めている。しかし、小学生においては昨年と比べて少し減少しており、子育てにおいてコミュニケーションの媒体が多様化し、幼少期から本に馴染みのない世代が増えてきていると考えられる。

令和7年度調査

	①よく読んでもらった	②ときどき読んでもらった	③あまり読んでもらわなかった	④まったく読んでもらわなかった
小学生	39.0%	39.1%	13.4%	8.6%
中学生	38.4%	39.4%	13.7%	8.6%

<図7-1 令和7年度調査と前年度調査の比較>



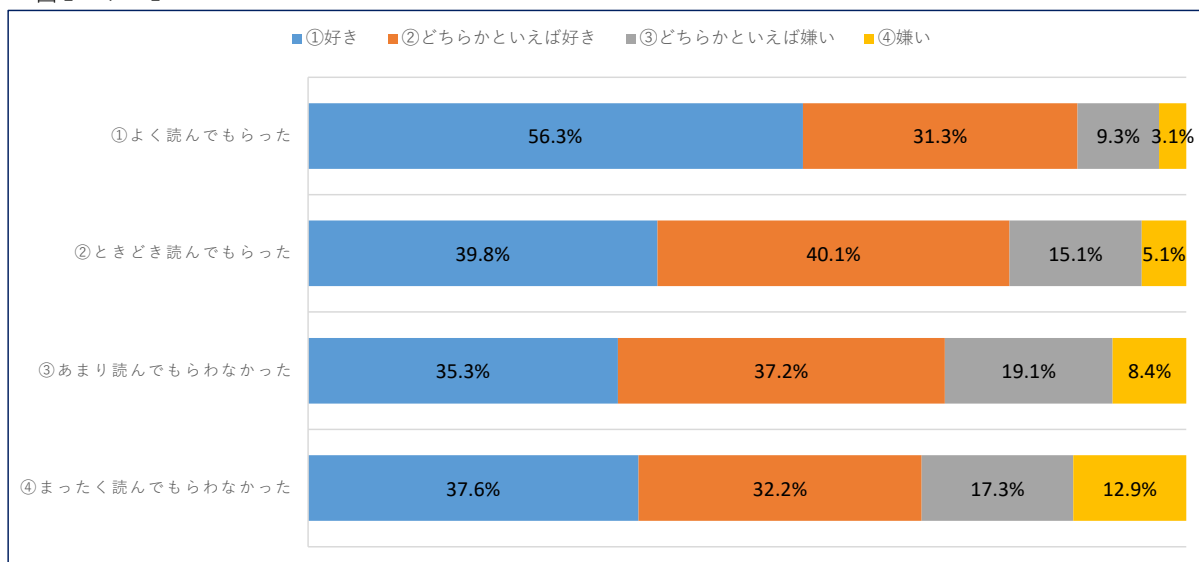
問１と問７のクロス集計

概要 問７で「①よく読んでもらった」と回答した小中学生のうち、問１で「①好き」「②どちらかといえば好き」と回答した児童生徒は87.6%であった。反対に「④まったく読んでもらわなかった」と回答した小中学生のうち、問１で「①好き」「②どちらかといえば好き」と回答した児童生徒は69.8%と、「幼少期から本に触れてきたか」と「読書が好きか」は相関関係にあるといえる。

問７の各回答毎の問１の回答の内訳

	①好き	②どちらかといえば好き	③どちらかといえば嫌い	④嫌い
①よく読んでもらった	56.3%	31.3%	9.3%	3.1%
②ときどき読んでもらった	39.8%	40.1%	15.1%	5.1%
③あまり読んでもらわなかった	35.3%	37.2%	19.1%	8.4%
④まったく読んでもらわなかった	37.6%	32.2%	17.3%	12.9%

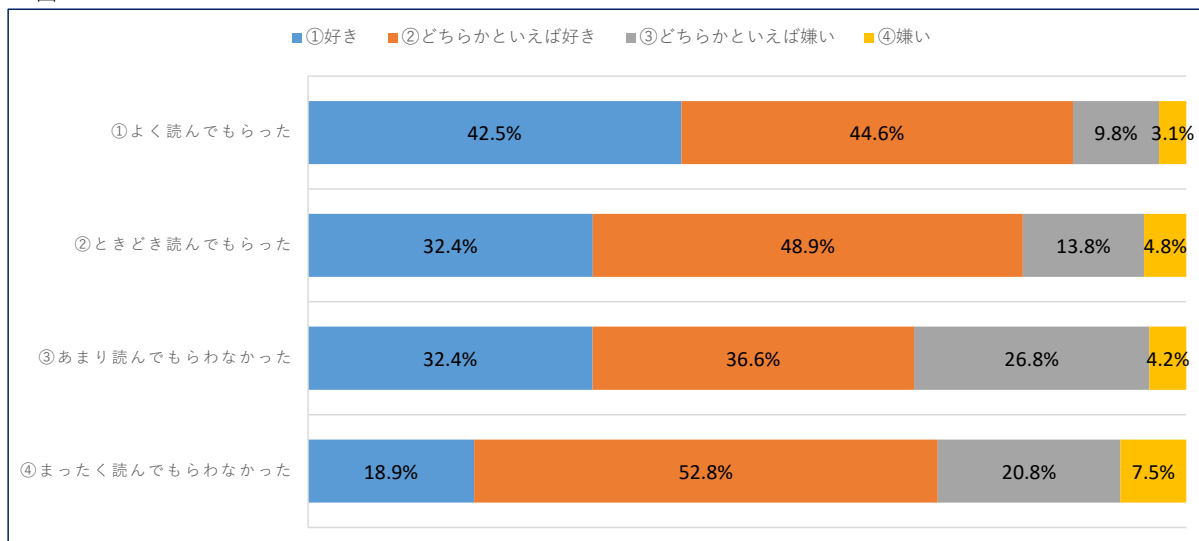
<図１・７－１>



令和6年度調査

	①好き	②どちらかといえば好き	③どちらかといえば嫌い	④嫌い
①よく読んでもらった	42.5%	44.6%	9.8%	3.1%
②ときどき読んでもらった	32.4%	48.9%	13.8%	4.8%
③あまり読んでもらわなかった	32.4%	36.6%	26.8%	4.2%
④まったく読んでもらわなかった	18.9%	52.8%	20.8%	7.5%

<図１・７－２>



【総評】

① 読書状況について

1ヵ月の間に1冊でも本を読む児童生徒は全体の80%程度であり、7冊以上読む児童生徒も多い。本を読むのが好きと回答した児童生徒も同様に80%以上という結果から、読書習慣を定着させるため、より多く本に触れるきっかけを作ることが必要と考えられる。

② 読書における漫画、雑誌の位置づけについて

読書内容については、漫画、雑誌が占める割合が多い。特に漫画は、小説などに比べてストーリーがわかりやすく、物語を視覚的に楽しむことができ、子どもたちにとって親しみやすいメディアであるため、読書習慣を形成する上で重要な足掛かりになると考えられる。

読書活動推進の目的は、知識を広げるだけでなく、感性を豊かにし、想像力を育むことであることから、読書の定義を小説などの子どもたちにとって難しい内容のものだけに限定せず、漫画や雑誌などの親しみやすいものを含めることによって、読書が身近なものとなり、より豊かな読書体験を楽しめるよう、引き続き取組みを行っていくことが必要と考える。

③ 電子媒体による読書状況について

アンケート結果から、電子媒体による読書は十分に浸透しているとは言えないが、読書の手段として活用が拡大されてきている。電子図書館は利用・返却が簡便であるため読書のきっかけの一つとして活用されており、学校では授業や朝読書、またインターネットに慣れるための教材の一つとして期待される。全ての本が電子化されている訳ではなく選定が難しい部分もあるが、今後も引き続き、新鮮かつ魅力的な蔵書を取り揃えていく。

④ 本を手にする環境について

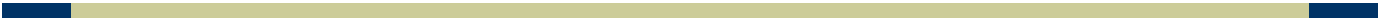
児童生徒どちらにおいても読んだ本は書店で見つけた本が多い。そのような中で、帯広市内の書店は減少傾向にあり、子どもの活字離れの一因となる可能性がある。一方で、インターネットが読書のきっかけとなっている子どもも少なくなく、電子書籍の活用も有効であると考え。電子図書館を含め、本との出会いの場として図書館の利用を促す取組みをすすめていく。

⑤ 読書に苦手意識を持つ児童生徒について

読書に対する苦手意識の根底には、幼少期から本に触れてこなかったことも要因の一つと考えられる。若者の活字離れが叫ばれて久しく、その若者が親になる世代となってきた昨今、これまで以上に苦手意識を持つ児童生徒の増加が危惧される。子育てにおけるコミュニケーションの媒体が多様化したことも一因であるが、図書館としては子育てにおける本の読み聞かせ等読書の重要性を再認識させる必要がある。

なお、今回のアンケート結果から、本のうち漫画や雑誌を好む層がいると読み取ることができ、読書に興味を持たせるには、これらのジャンルを入口とする取組みも検討する余地があると考えられる。

Ⅲ 参考



1 はじめに

本項では、全国における帯広市の読書意識の位置付けを確認するべく、別途文部科学省が実施した「全国学力・学習状況調査（以下、「全国調査」という）」の設問の比較を行う。

2 全国調査における比較対象設問（児童質問調査、生徒質問調査）

（21）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

〔回答項目〕 ※本参考では、回答番号1～4の項目を参照

1：2時間以上 2：1時間以上、2時間より少ない 3：30分以上、1時間より少ない
4：10分以上、30分より少ない 5：10分より少ない 6：全くしない

（24）読書は好きですか

〔回答項目〕 ※本参考では、回答番号1、2の項目を参照

1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない
4：当てはまらない

3 全国調査の回答結果

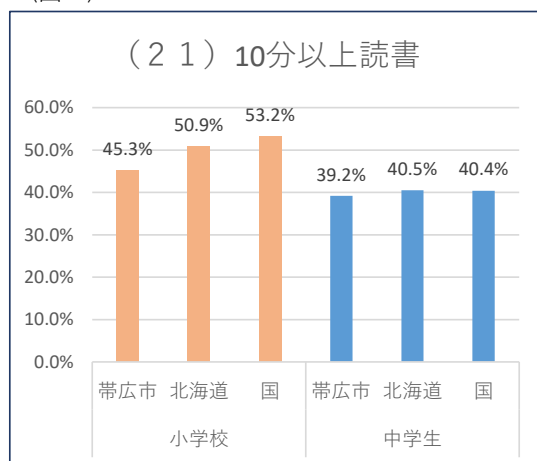
（21）結果

区分	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小学生	帯広市	調査なし		54.7%	54.2%	45.3%
	北海道		57.6%	57.1%	58.1%	50.9%
	国		61.4%	59.6%	60.0%	53.2%
中学生	帯広市	調査なし		48.9%	52.0%	39.2%
	北海道		48.8%	48.4%	49.0%	40.5%
	国		50.1%	48.6%	49.4%	40.4%

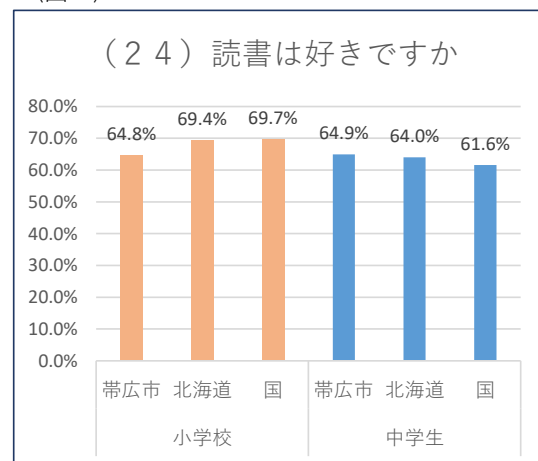
（24）結果

R7	調査主体
64.8%	文部科学省(国)
69.4%	
69.7%	
64.9%	
64.0%	
61.6%	

〈図1〉



〈図2〉



4 考察

- （図1参照）全国調査による帯広市と全国の比較結果を見ると、小学生は帯広市が全国調査の結果を下回っており、中学生はほとんど変わらないといった結果となった。全国的にも子どもの読書量は減少傾向であるが、帯広市は特に顕著という結果が出たため、読書習慣を定着させる取組みが必要である。
- （図2参照）小中学生どちらにおいても大きな差はないが、帯広市の小学生は全国と比較して5%程度低く、若干苦手意識があるといえる。反対に、中学生においては3%程度高い結果となったが、どの集計区域においても60%を超える結果となっており、小中学生の読書に対する印象はそれほど悪くないといえる。